

目標に向かって人は進む

一本の線を引く時、

目標を目にしていなければ、

最後まで線を引くことはできない。

▼「性格はいかに選択されるのか」

人間は行為に先立って、何かをしようという「目標」があり、その目標を実現するために考え、行動するというのがアドラーの考え方です。たとえば、夜一人で寝る子どもが泣くのは、母親の注目を引くという目的のためですし、目標が何か分かれれば、なぜそのような行動をとるのかを理解することもできません。

アドラーが人生の目標を定めたのは5歳の時です。冬の日、友だちとアイススケートに出かけたアドラーは肺炎に罹かかってしまいました。医師が「この子は助かりません」と宣告するほどの重症でしたが、幸いにも両親の看病のお陰で肺炎から回

復したアドラーは、この時「私は医師にならなければならない」と決心しています。

途中、挫折しかけたこともありましたが、「目標に到達しよう」という意欲を失うことはありませんでした。目標があったからこそ前に進むことができたアドラーは、こう考えました。

「一本の線を引く時、目標を目にしていなければ、最後まで線を引くことはできない」。

目標があるからこそ、人は前に進むことができます。もし目標がなければ、どちらに進み、どのように努力すべきかも、考えることができなくなるのです。